

日向守に下し其具方日向守に託け至との事あり
小島城主橘津守ハ世に隠れあき天皇普代の侍に
義光の家に入ぬものとて則天正三年十月十六日
津守と素直しきと其跡を日向守に被下至とい
と如何なる宿意あり之義光の死に因入ふとて程なく
山形より責落されて奥州へ落ちたり其跡に常陸守
家老里見源朝忠ハ其代に則改て里見薩摩守と号す
之に頼久とて一度代に出入りしとの内談に依て略言
西月中里見大石田より専阿弥坊守阿弥坊の西僧と目せ
右京押班玉手街屋跡にて名を利度とて由をかりしハ
頼久公少召れ其に立石寺坊中一身いたし山村浅岡
大炊の河原期村流に兵部西尾鋪田まを猪地終村
北山集あひ立石寺大勢隠し至東山村の時宗寺乃
分小勢なりといふ長松院と名のけせ至長松院と名け
兵庫西人を大将と定め若し山形勢押来ふは先年の
精兵打て出せ切せくへしと内談あり大崎宮城を分
名取此諸將にかゝる評定ありて頼久公西僧を召され
青ハ名き出羽へ立歸り由和向も密に物語いたせと
河原崎より移て西僧大石田に歸り始終を和向へ上り
上人に中悦むたされ名を和向とて改したる事ありは